

03・ありさと常夏、癒しの、海と空

とある夏の日。午前五時すぎ。

日本国内のとある暖かい地域にある、小さな島。

……の、静かな浜辺。

主人公とありさは今、砂浜のパラソルの下に座って、穏やかな波音を聞いている。

SE1 波音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【0—10秒ほど流してから『ありさ』のセリフ】

「【穏やかに。だが少し眠そうに。

一晩中主人公といちやいちゃしていたので、寝ておらず、眠いので】

あゝ……♪

陽（ひ）いのぼってきた。朝だねえ………」

主人公、ありがごちらを見たのを機に、顔を寄せてキスする。

「※4回※ キスする。

軽く、音を立てて、何度もキスする」

ん……ちゅっ♡

ちゅっ。ちゅ♪

【嬉しくて笑う。

この一晩で、すっかりキスするのが当たり前になっていた。

『自分たちは一晩中セックスしていた。なので、さすがに眠い』と言いたい』
ふふふっ。

一晩中しちゃうとか、やばいね……♡

さすがにちゅっと眠いやく……♪」

主人公とありさ、見つめ合って微笑み合う。

〈主人公〉

「……そおだよねえ……私も眠い……。

ありさちゃん、身体大丈夫？ しんどくない？」

「【穏やかに。だが少し眠そうに。

正直なところ、眠い。だが、精神的には満たされているので】
んゝ……だいじよぶだよ。お姉さんは？」

〈主人公〉

「……私も、大丈夫！

でももう年寄りだからね……。

もうしばらくしたら『腰が痛い！』とか言い出すかも……。」

「【楽しく笑って。

主人公が急に面白い事を言い出したので】

はは♥ 急に年寄りとか言わないの♥

「【『ミリモ』は『ほんの少しも』という意味で言っている。

主人公は、ありさにとっては少しも『おばさん』ではないので】
お姉さん、ミリモおばちゃんじゃないから♪

【少しにやにやと主人公をからかう】

でもそうだよね？

お姉さんの身体には堪（こた）えちゃったかもねえ？

『『立たなく』が『立たんく』になる。』

『した』は『セックスした』の略』

もう、腰立たんくなっちゃうかもって位、したもんね……♡」

〈主人公〉

「……むっ！ いや！ まだまだいけるよ！」

SE2 主人公が立ち上がる音

【最初から最後まで流す】

主人公、ありさの言葉を受け、おもむろに立ち上がる。

若さをアピールしたのである。

無理やりこんな事をしたせいで、明日以降の腰に影響を及ぼす気がしなくてもないが……
…まあいい。

「【少しキャツキャと嬉しそうに。】

それでもあまり声が変わらないが、ありさとしては、非常にテンションが高くなっている。

ありさは、主人公のする事であれば、なんでも好ましいし、面白いので」

あつ。立った。すご♡

お姉さん偉いぞ♪」

〈主人公〉

「……ていうか、こうやってみると……朝日、すごく綺麗だねえ！」

そして主人公は、立ち上がった事で気づいた事を、早速口にしてみる。

ありさに出会ってから主人公は、都会にいた頃よりもずっと素直で、のびのびとして
いる。

「【楽しそうに。】

主人公が、自分も気に入っている朝日に関心を持ってくれたので」

あはっ♡ そう♪

朝日、めっちゃ綺麗でしょ？」

〈主人公〉

「うん！ さっきも綺麗だなあって思ってたけど。

こうして立ち上がってみると、ますます綺麗に見えるよ！」

「【少し驚いて、かつうきうきして。

『立って朝日を見ると、より綺麗に見える』という発想はなかったの
で立って見る方がすごい？

じゃああたしも♪」

SE3 ありさが立ち上がる音

【最初から最後まで流す】

二人、並んで朝の海を眺める。

「【穏やかに、しみじみと。

とても満足した様子で。その位、今幸せなので】
はあ……いい朝だあ。

なんか見てると、一杯いい事ありそうだよねえ。

お姉さんに見れて、嬉しく……♡」

〈主人公〉

「……あのさ、ありさちゃん」

しかしここで、主人公は新たな話題を切り出す。
どうしても今、伝えておきたい事があるのだ。

「【少きよとんとして。

主人公がこれから何を言おうとしているのか、見当もつかないので
ん？？」

当然、ありさはきよとんとしているが……。

今がいい。今伝えたいのだ。

〈主人公〉

「ちよつと、お伝えしたい事が……」

ありさ、主人公がただならぬ真剣さなので、自分もちよつと姿勢を正し、声もかしこまる。

「【少しかしこまって、真面目に。

主人公がこれから真剣な話をしたがつているらしいと気づいたので。

内心緊張しつつ、しっかりと相槌を打つ」

あつ。うん。

【改めて深くうなずいて。

『私はあなたの話を、真剣に聞きますよ』という意味を伝える」

うん。聞くよ。言つて」

〈主人公〉

「これからの事なんですけど……」

「【大きく息を吸ってから話す。

意識して穏やかに、優しく続きを促す。

内心は緊張しているし、心臓がバクバクしている。

しかし、それが伝わってしまうと、主人公が話しづらくなってしまうかもしれない。

なので、真剣に聞きつつも、何でもないようなそふりをする」
お姉さん、人生悩み中だもんねえ。

あたしでよければ、何でも聞くぜ？」

〈主人公〉

「私、住みます！」

「【少しぎよっとして。

あまりに唐突で、虚を突かれたので。

おそらく『住みます』とは『この島に移住します』という意味なのだろう。

だが、この一言だけでは、まだ確証が持てないので」

えっ……!？」

〈主人公〉

「この島に移住します！」

「【少し驚きつつも、声が弾む。

ありさとしては、ものすごく驚いている。

だが『ものすごく驚く』で、やっと他の人には『少し驚いている』程度に聞こえる。ありさの心情としては、自分の予想が当たったので、とても嬉しい。

だが、自分にとって都合がよすぎて、とても信じられない部分もある」
住むの？　ここに？

【『判断が早い！』の略】

判断早（はや）！」

〈主人公〉

「はい！　確かに早い！　でも、もう決めました！」

「【かなり驚いて、遠慮がちに、おずおずと。

主人公があまりにも即決しているの。

『確かにこの島はすごくいいところだし、主人公にも合っているように思う。だが、滞在一週間で、そんな重要な決断をしているのだろうか』と、少し心配になっている」

えく……いいのお？

あたしは嬉しいけどさあ。

【少しもじもじと。

『この島が主人公に合っている根拠』を述べていく。

しかし、ありさにしては歯切れが悪くなる。

その位、驚き、信じられずにいるので」

まあ確かに、ガチでお勧めではある。

お姉さんこの島、ちよく馴染んでるし。

なんか来た頃より、リラックスできてるっぽいし」

〈主人公〉

「うん。私も、我ながらそう思います」

「少し照れつつ、遠慮がちに。

ありさとしては、ぜひこの島に移住してほしい。

だが、はつきりとそう言う勇気が持てずにいる」

あたしは居てくれたら、嬉しい。よ？

けど……」

SE 4 主人公が、ありさの手を握る音

【最初から最後まで流す】

「息遣いのみで表現する。

驚き、感激している。

主人公に手を握られたので」

……！」

〈主人公〉

「私の気持ちは、この通りです。

昨日、ありさちやんが言ってくれたみたいに。

これからもこの島でありさちやんと楽しく暮らせたらなあって、思ってるよ！」

「少し涙ぐんで。

主人公がそれほどまでに自分を想ってくれている事がわかったので」

うん♪

お姉さんの気持ちは、わかった♡

【少し涙ぐんで。

照れつつも、とても嬉しそうに】

じゃあ……。

【嬉しくて笑う】

……ふふふふっ ♥

【『おけ?』は『OK?』の略】

今日からマジに付き合うって事で、おけ?」

〈主人公〉

「……うん！ 私でよければ、どうぞよろしくお願いします！」

主人公の言葉に、ありががこれまで見た事ない位に驚いて、喜び、はしゃぐ。

辺りはすっかり明るくなり、主人公はありさと、この海を見ているだけで、とても幸せな気分になった。

「ここから※マークまで、大喜びして、どんどん声が弾んでいく。

今までで一番テンションが高くなる。

だが、それでも『ありさとしては、比較的テンションが高い』程度にとどまる」
やったく♪

【『マジでマジ』の部分を、ちよつと強調して。

それ位、強く伝えておきたい事なので】

お姉さん。あたしねえ、割とマジでマジだから。

今日から改めて、よろしくね♪ ※

【※1回※ キスする。

軽く頬にキスする】

ちゅっ♪」

ここでフェードアウトして終了。